

日本パブリックリレーションズ協会会員誌

PRsj

PUBLIC RELATIONS
SOCIETY OF JAPAN

NEWS

2012 年 1 月

NO. 226

TOPICS

「年頭に当たって」

(社)日本パブリックリレーションズ協会 理事長 森 健
MESSAGE P3

「広報PRアカデミー2011

PRプランナー1次試験対応講座 まもなく開講」

ATTENTION P4

「広報PRアカデミー2011 マネジメントコース

1～3月開講 6講座を受付中」

ATTENTION P5

「第10回PRプランナー資格検定1次試験

受験予約受付は1月13日(金)まで」

ATTENTION P6

社団法人日本パブリックリレーションズ協会

〒106-0032 東京都港区六本木6丁目2番31号 六本木ヒルズノースタワー5F

電話(03)5413-6760 ファックス(03)5413-2147

URL <http://www.prsj.or.jp/>

関西支部 〒530-0003 大阪市北区堂島2-1-27 桜橋千代田ビル3F

電話(06)6344-3002 ファックス(06)6344-3005

発行人: 森 健

1月号 目次

1月～2月のスケジュール	-----	1
MESSAGE(メッセージ)	「年頭に当たって」	----- 3
ATTENTION(お知らせ)	「広報PRアカデミー2011 PRプランナー1次試験対応講座 まもなく開講」	----- 4
〃	「広報PRアカデミー2011 マネジメントコース 1～3月開講6講座を受付中」	----- 5
〃	「第10回PRプランナー資格検定1次試験 受験予約受付は1月13日(金)まで！」	----- 6
BULLETIN(活動報告)	「最後の最後まで勉強を 11月30日「講演会と忘年懇親の夕べ」開催報告」	----- 7
〃	「広報PRアカデミー2011 PRプランナー3次試験対応講座がスタート」	----- 8
〃	「PRアワードグランプリ (株)電通パブリックリレーションズがグランプリ」	----- 9
〃	「第5回PRプランナー交流会を11月22日に開催」	----- 13
〃	「第6回企業部会フォーラム メディア研究会 開催報告」	----- 16
〃	「第4回広報活動研究会 開催報告」	----- 16
REPORT(講演レポート)	「第136回定例研究会 開催レポート」	----- 17
PR TREND(PRトレンド国内)	「電通総研『話題注目商品2011』レポート」	----- 18
〃	「ELトレンド指数で見る2011年11月度キーワード・ランキング」	----- 19
PR TREND(関西の風)	「関西の高速道路整備の現況」	----- 20
BOOKS(書評)		----- 21
PLAZA(会員便り)	「ウェバー・シャントウィック・ワールドワイド(株)西谷武夫氏が「パブリック・アフェアーズ戦略」を発刊」	----- 22
協会掲載記事	「PRSJ in Media」	----- 23
表4		

1月～2月スケジュール

第9回PRプランナー資格検定 3次試験 日 時 : 1月21日(土) 13:00～17:00
会 場 : 富士通ラーニングメディア品川ラーニングセンター

広報PRアカデミー2011 「マネジメントコース」

- 科目4 日 時 : 1月25日(水)・2月1日(水) 19:00～21:00(両日とも)
「広報・PRマネージャーのための
マーケティングとブランドのマネジメント」 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
講 師 : 中央大学 大学院戦略経営研究科 教授 田中 洋氏
- 科目5 日 時 : 2月8日(水) 19:00～21:00
「CSR活動と連携した
広報・PRマネジメント」 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
講 師 : 帝人(株) 広報・IR室長 宇佐美 吉人氏
- 科目6 日 時 : 2月22日(水) 19:00～21:00
「広報・PRマネージャーのための
IRマネジメント」 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
講 師 : 東レ(株) IR室長 神山 健次郎氏

「PRプランナー試験対応コース」

- 3次試験対応講座 日 時 : 1月10日(火)・17日(火) 19:00～21:30(両日とも)
「広報・PR計画の立案作成」 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
(コーポレート分野) 講 師 : (株)電通パブリックリレーションズ コミュニケーションデザイン局
イシュー・リスクマネジメント部 シニアコンサルタント
岡本 純子氏

「PRプランナー試験対応コース」

- 1次試験対応講座 日 時 : 1月31日(火) 19:00～21:30
第1日 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
「パブリックリレーションズ概論」 講 師 : (株)プロペラ・コミュニケーションズ 代表取締役 永井 昌代氏
「企業経営と
パブリックリレーションズ活動
コミュニケーションとPR」 (社)日本パブリックリレーションズ協会 事務局次長
教育研修・資格制度担当 真部 一善
- 第2日 日 時 : 2月7日(火) 19:00～21:30
「メディアリレーションズ」 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
「マーケティングとPR」 講 師 : (株)プロペラ・コミュニケーションズ 代表取締役 永井 昌代氏
- 第3日 日 時 : 2月14日(火) 19:00～21:30
「インベスターリレーションズ」 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
「エンプロイーリレーションズ」 講 師 : (社)日本パブリックリレーションズ協会 事務局次長
「ネットPR」 教育研修・資格制度担当 真部 一善
- 第4日 日 時 : 2月21日(火) 19:00～21:30
「企業の危機管理」 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
「行政・団体等の
パブリックリレーションズ」 講 師 : (株)プロペラ・コミュニケーションズ 代表取締役 永井 昌代氏
- 「国際広報」
- 第5日 日 時 : 2月28日(火) 19:00～21:30
「PR活動のマネジメント」 会 場 : 六本木アカデミーヒルズ 49
「パブリックリレーションズと倫理」 講 師 : (社)日本パブリックリレーションズ協会 事務局次長
「資格制度説明、質疑応答 他」 教育研修・資格制度担当 真部 一善

異文化勉強会 日 時 : 1月23日(月) 11:00～13:30
「駐日インド大使館訪問」 会 場 : 駐日インド大使館

広報ゼミ(企業部会) 日 時 : 1月30日(月) 18:30～21:00
会 場 : クルーズクルーズ THE GINZA
講 師 : 毎日新聞 元主筆 菊池 哲郎氏
テーマ : 「マスコミ人菊池哲郎、マスコミ大批判」

なでしこカウンスル 日 時 : 2月21日(火) 19:00～21:00
会 場 : アルソアねむの樹トラスト東京研修室
講 師 : 毎日新聞 編集局 編集総センター 記者 上杉 恵子氏
テーマ : 「新聞記者から広報ウーマンにしてほしい、してほしくない…こと」

1月の理事会・委員会・部会スケジュール

定例理事会（1月度）	日 時	： 1月19日（木） 12：00～14：00
	場 所	： 六本木ヒルズクラブ
組織委員会（1月度）	日 時	： 1月18日（水） 17：00～18：00
	場 所	： 白金台くら・ロンジェビテ>
国際委員会（1月度）	日 時	： 1月23日（月） 14：00～15：00
	場 所	： TANAKAYA GRILL & LOUNGE
教育委員会（1月度）	日 時	： 1月11日（水） 12：00～14：00
	場 所	： 協会会議室
広報委員会（1月度）	日 時	： 1月24日（火） 15：00～17：00
	場 所	： 協会会議室
出版委員会（1月度）	日 時	： 1月23日（月） 17：00～19：00
	場 所	： 協会会議室
顕彰委員会（1月度）	日 時	： 1月18日（水） 12：00～14：00
	場 所	： 協会会議室
資格制度委員会（1月度）	日 時	： 1月26日（木） 16：30～18：30
	場 所	： 協会会議室
PR業部会幹事会（1月度）	日 時	： 1月17日（火） 16：00～18：00
	場 所	： 協会会議室
IT委員会（1月度）	日 時	： 1月13日（金） 12：00～14：00
	場 所	： 協会会議室

年頭に当たって

(社)日本パブリックリレーションズ協会
理事長 森 健

明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年度は、東日本大震災、原発問題、さらに、欧州金融危機、円高などにより、日本を取り巻く環境は、きわめて厳しい一年となりました。今年は、そうした状況から脱却し、復興への歩みを確かなものにする一年です。

震災後は、「つながり」あるいは「絆」といったことが、社会の共通の価値として再認識され、人と人をつなぐ「コミュニケーションの役割」が改めて問われることとなりました。「今こそ広報・PRの力を」という意見が外部から広報・PR関係者への期待として寄せられ、また、広報・PR関係者からも「広報・PR活動の新たな挑戦」への決意として表明されました。

日本パブリックリレーションズ協会は、本年度「公益法人化」を目指しています。これまで以上に、社会性、公益性の高い協会活動を目標としてまいります。活動の充実のベースとしては、まず、組織の強化、財政基盤の強化を図らなければなりません。リーマンショック後の景気後退で落ち込んだ会員数は、再び増加へと転じておりますが、引き続き会員拡大の努力を続けてまいります。

協会は会員の皆様にとって、「学びの場」であり「切磋琢磨の場」であり「交流の場」です。これまで以上に、積極的に協会活動にご参加いただき、皆様方と一緒に、広報・PRの認知向上、質の向上に努めて、社会・経済の発展に寄与していけたらと存じます。

昨年度の年頭には、①デジタル化への対応 ②グローバル化への対応を活動の重点としてあげさせていただきました。デジタル化への対応は「広報担当者のためのソーシャル・メディア実践講座」の開催など具体的な取り組みが始まりましたが、グローバル化への対応は、まだまだこれからです。

今年も、時代の変化に対応をして協会活動の刷新、充実に努めてまいりますので、会員の皆様には、これまでと変わらぬご厚情とご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

広報PRアカデミー2011 PRプランナー1次試験対応講座 まもなく開講 会場受講は1月27日まで申込み受付 教育委員会

協会では、来る1月31日より5回にわたって、「PRプランナー1次試験対応講座」を六本木アカデミーヒルズ49にて開講します。

PRプランナー資格制度は第1回試験の実施以降、5年目を迎えており、すでにPRプランナー資格の取得者数も1,000人を超え、広報・PRの専門的な知識と技能を検定するわが国唯一の制度として定着の度合いを深めてきました。この3月には第10回の1次試験が東京、大阪、福岡の3地区で予定されており、企業の広報部門、PR会社、さらにコミュニケーション専攻の大学生等より多数の受験申込みが寄せられています。

1次試験では、広報・PRにかかわる幅広い分野の知識が問われるため、受験者は各分野におけるさまざまな概念を的確に理解しておくことが合格への第一歩となります。「PRプランナー1次試験対応講座」では、公式テキスト「広報・PR概論」にもとづき、パブリックリレーションズの基本から広報・PRの実務まで多様な分野における抽象的な概念やポイントをわかりやすく解説し、受講者の理解を助けます。PRプランナー資格を取得している2名の講師が自らの体験を踏まえ、受講者の指導にあたります。

なお本講座では、インターネットを活用し講義の模様を動画で視聴できるWeb受講サービス(視聴期間限定)を提供するため、地方等の遠隔地からネットを介した受講が可能です。また、講義のデータは講座終了後も期限内であれば何度でも視聴でき、より理解を深めることが可能です。

会場受講(Web受講サービスも利用可)の申込締切りは、1月27日(金)。Web受講サービスは、講座開講後も受付いたします。詳細と申込みは、次の協会Webサイトをご参照ください。

http://event.prsj.or.jp/event/prp/1st_exam

■PRプランナー1次試験対応講座の概要

日 程	時 間	講座テーマ	講 師	受講料(税込)	締 切
1月31日 (火)	19:00 ～ 21:30	パブリックリレーションズ概論／ 企業経営とパブリックリレーションズ活 動／コミュニケーションとPR	(株)プロペラ・コミ ュニケーションズ 代表取締役 永井昌代氏	会場受講＋ Watershed 受講 ・日本PR協会会員 21,000円 ・学生 18,900円 ・一般 31,500円	会場受講＋ Watershed 視聴 1月27日 (金)まで
2月7日 (火)		メディアリレーションズ／ マーケティングとPR	日本PR協会 事務局次長 真部一善	Watershed 受講のみ ・日本PR協会会員 21,000円 ・学生 18,900円 ・一般 21,000円	Watershed 視聴のみ 1月24日 (火)まで (開講後の 申 込 み も 可)
2月14日 (火)		インベスターリレーションズ／ エンployerリレーションズ／ネットPR		(会員料金は、法人 正会員社員、 もしく は個人正会員ご本 人様のみ)	
2月21日 (火)		企業の危機管理／国際広報／行政、 団体等のパブリックリレーションズ			
2月28日 (火)		PR活動のマネジメント／ パブリックリレーションズと倫理／ 資格制度説明、質疑応答、その他			

広報PRアカデミー2011

マネジメントコース

「科目3 広報マネージャーのためのリスクマネジメント」を開講 1～3月開講6講座を受付中

教育委員会

さる12月7日と14日、「広報PRアカデミー2011 マネジメントコース」の「科目3 広報マネージャーのためのリスクマネジメント」が、六本木アカデミーヒルズ49にて開講されました。

講師はリスクマネジメントの分野で豊富なコンサルティング経験を有する株式会社田中危機管理・広報事務所 代表取締役社長 田中正博氏が担当、熱の入った講義と演習が行われました。

初日12月7日は、マネージャーとしての危機的事態に対する認識や心得、また発生時におけるマスコミ対応の心得などについて、実際に危機に陥った企業の実例を交えた講義が行われました。2日目となる12月14日には、グループに分かれての演習が行われました。企業や団体において日常的に発生しがちな2件の事態を想定、マネージャーとしてどのように対応すべきかグループごとにディスカッションが展開されました。グループごとにまとめ発表した対応策については、講師の田中氏が講評を行い、的確な指摘は受講者の関心を集めていました。



12月の講座をもって「マネジメントコース」はコース前半を終了しましたが、1月から3月にかけて科目4から科目8まで下表の6講座の開講を予定しております。日本PR協会では引き続き科目別受講の申し込みを受け付けています。

講座の詳細及び受講申込みについては、以下の協会Webサイトをご参照ください。

<http://event.prsj.or.jp/event/upper>

■「マネジメントコース」今後のスケジュール

日 程	時 間	講座テーマ	講 師	受講料(税込)	締 切
1月25日 (水)	19:00 ～ 21:00	広報・PRマネージャーのためのマーケティングとブランドのマネジメント① ② (講義と演習)	中央大学 大学院 戦略経営研究科 教授 田中 洋 氏	【講座 4】 ・日本PR協会会員 各 18,900 円 ・PRプランナー(准・補) 各 25,200 円 ・一般 各 28,350 円	各科目開講の前週 金曜日まで
2月 1 日 (水)					
2月 8 日 (水)		CSR活動と連携した広報・PRマネジメント (講義)	帝人株式会社 広報IR室長 宇佐美吉人 氏	【講座 5～講座 8】 ・日本PR協会会員 各 9, 450 円 ・PRプランナー(准・補) 各 12,600 円 ・一般 各 14,175 円 (会員料金は、法人正会員社員、もしくは個人正会員ご本人様のみ)	
2月22日 (水)		広報・PRマネージャーのための IRマネジメント (講義)	東レ株式会社 IR室長 神山健次郎 氏		
3月 7 日 (水)		広報・PRマネージャーのためのグローバル広報マネジメント (講義)	筑波学院大学 経営情報学部 教授 大島慎子 氏		
3月22日 (水)		広報・PRマネージャーのためのWeb とソーシャルメディア活用マネジメント (講義)	クロスメディア・コミュニケーションズ株式会社 代表取締役 雨宮和弘 氏		

＜第 10 回PRプランナー資格検定 1 次試験＞

お急ぎください！

受験予約受付は 1 月 13 日(金)まで！

資格制度委員会

第 10 回 P R プランナー資格検定 1 次試験の受験者募集受付は、1 月 13 日（金）までとなっております。

今回は新設会場として、東京・大阪の他に、九州地区（福岡）で初めて実施いたします。受験を予定されている会員社員の皆様には、早目のお申込みをお勧めいただければ幸いに存じます。併せて、受験の促進につきまして、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、下記、日本 P R 協会の P R プランナー資格制度専用ホームページをご覧ください。

<http://pr-shikaku.prsj.or.jp/>

＜試験会場＞



東京会場
明治大学リパティータワー



大阪会場
毎日インテシオ

＜第 10 回 P R プランナー資格 1 次試験 受験予約受付期間＞

2012 年 1 月 13 日（金）まで

※定員に達し次第、締め切らせていただきますので、予めご了承ください。

＜第 10 回 P R プランナー資格 1 次試験 受験申込書送付期間＞

2012 年 1 月 20 日（金）＜必着＞

＜第 10 回 P R プランナー資格 1 次試験 試験日＞

2012 年 3 月 4 日（日）

会 員 限 定**最後の最後まで勉強を
11月30日、「講演会と忘年懇親の夕べ」報告****組 織 委 員 会**

組織委員会主催の「講演会と忘年懇親の夕べ」を11月30日（水）、銀座「クルーズクルーズ THE GINZA」にて開催しました。会は2部構成で、前半は日本経済新聞東京本社 編集局 総務 原田 亮介氏より「日本経済新聞は複合メディアとして何を指すのか」をご講演頂き、後半には原田様も参加されての忘年懇親会を行いました。当日は39名が参加しました。

広報PRアカデミー2011

PRプランナー3次試験対応講座がスタート

教育委員会

PRプランナー試験の最難関は、ニュースリリースの作成能力、広報・PR計画の立案能力を検定する第3次試験です。2008年1月の第1回の実施以降、すでに8回を数える3次試験では多くの受験者が厚い壁に阻まれました。今年3月には、いよいよ第9回3次試験が予定されており、多くの受験者が合格の栄光をめざして挑戦します。

当協会では、3次試験合格に向けた受験者の取組みを支援するため、昨年より広報PRアカデミーに「PRプランナー3次試験対応講座」を開講しました。本講座では、3次試験の課題となるプレスリリースの作成、広報・PR計画の立案作成に必要な技能を6回の講座で集中的に養成することを目的としており、インターネットの活用により会場や時間に制約されない履修を可能とするWeb受講者も含め、今回は約50名が本講座に参加しています。



昨年12月に開講した「ニュースリリースの書き方」に関する第1回、2回の講座では、(株)ミラ・ソル 田代 順氏が講師を担当、リリースの作成、パブリシティにおけるニュースリリースの効果的な活用法について、講義と演習が行われました。かねてよりニュースリリースに関する指導に定評のある田代氏の講義に受講者は真剣な面持ちで聴き入り、演習では熱心に課題に取り組む姿が目立ちました。



12月20日、マーケティング分野における広報・PR計画の立案作成について(株)インテグレート 赤坂 幸正氏が担当、あわただしい年末にもかかわらず多数の受講者の出席がみられました。

1月10日よりコーポレート分野を対象とした「広報・PR計画の立案作成」について、(株)電通パブリックリレーションズ 岡本 純子氏が講師を務める予定です。

3月の第9回PRプランナー3次試験では、本講座を受講した多くの受験者の難関突破が期待されます。

「PRアワードグランプリ」グランプリに 株式会社 電通パブリックリレーションズ 「議会広報紙のイノベーション ～さいたま市議会「ロクマル」の挑戦～」

顕彰委員会

既に協会ニュース 12 月号でもお伝えいたしました
が、2011 年度「PRアワードグランプリ」の最終審査
会で今年度のグランプリ 1 作品、部門最優秀賞 4 作品
が決定しました。

2011 年度「PRアワードグランプリ」で最高得点(グ
ランプリ)を獲得したのは、(株)電通パブリックリレー
ションズの『議会広報紙のイノベーション ～さいたま
市議会「ロクマル」の挑戦～』でした。



グランプリ: (株)電通パブリックリレーションズ

また、部門最優秀賞は、コーポレート・コミュニケーション部門が(株)オズマピーアールの『宇
都宮市都市ブランド戦略プロジェクト 宇都宮プライド ～100 年先も誇れるまちを、みんなで～』、
マーケティング・コミュニケーション部門が(株)電通 関西支社／(株)電通パブリックリレー
ションズ 関西支社の『「アイスの実」キャンペーン 2011 PR活動』、ソーシャル・コミュニケーション
部門がセカンドハーベスト・ジャパンの『被災地 石巻へ食糧配給拠点立ち上げ ～東日本大震災
直後からの支援活動～』、イノベーション部門が(株)博報堂の『「マーケティング 3.0＝世の中と企
業とが価値を共創する時代」のPR発想からの統合コミュニケーションプログラム 「ヴィクト
リーレブンプログラム」』にそれぞれ決定しました。



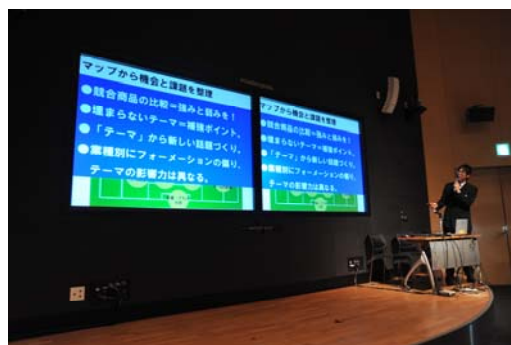
コーポレート・コミュニケーション部門
最優秀賞: (株)オズマピーアール



マーケティング・コミュニケーション部門
最優秀賞: (株)電通 関西支社
／(株)電通パブリックリレーションズ関西支社



ソーシャル・コミュニケーション部門
最優秀賞:セカンドハーベスト・ジャパン



イノベーション部門
最優秀賞:㈱博報堂

表彰式は最終審査会終了後、同会場にて開催いたしました。



グランプリ受賞の㈱電通パブリックリレーションズ

《「PRアワードグランプリ」受賞社及び講評》

・PRアワードグランプリ

㈱電通パブリックリレーションズ

『議会広報紙のイノベーション ～さいたま市議会「ロクマル」の挑戦～』

【講評】

首長のリーダーシップの期待できる自治体の広報誌と異なり、議会是对立会派を包含しているだけに、広報誌により明快なメッセージを提示しにくい性格を持っている。そのため従来は形式的な編集でお茶を濁している例がほとんどだったといえよう。

しかし、この作業では、議会と住民とのコミュニケーションという、ともすればなおざりにされがちな本来の使命に真正面から取り組んでいることは、大いに賞賛に値する。具体的には、イラスト、アイコンや図表などビジュアル要素の活用と、難解な用語を排し読みやすい文章を心がける、また、アンケート等で市民の声をくみ上げたり、有識者のインタビューを掲載するなど、これまでの議会広報誌にみられなかった挑戦を通じて市民と議会の距離を近づけることに成功している。

一方、平易な表現を目指すゆえに、細部の正確さを犠牲にせざるを得ないこともまた事実である。この二律背反の課題は議会広報誌の基本的性格に由来するものと思われ、常に付きまとう課題だろう。

近年の議会基本条例制定の動きの中、議会広報は今日的課題になりつつある、この事例が他自治体の参考となることを願ってやまない。

・コーポレート・コミュニケーション部門 最優秀賞

(株)オズマピーアール

『宇都宮市都市ブランド戦略プロジェクト 宇都宮プライド ～100年先も誇れるまちを、みんなで～』

【講評】

都市活性化は日本の地方都市共通の課題で、多くの都市で取り組まれているが、見るべき成果を出した都市は決して多くはない。この宇都宮市の場合、行政が音頭をとってはいるが、公募に応じた市民、民間企業、町づくり団体、メディアが積極的に参画できる体制としたこと、既存の都市イメージに頼ることなく、市民自身が気づいていない新たな魅力を発見するようにしたこと、市民自身の参画による多様かつ積極的な発信ができたこと、などから、市民全体を巻き込んだ戦略として評価できる。

まず目標を明確に設定、活動ステップを「認知」、「信頼」、「愛着」の段階に分け、戦略も明確化し、参加する人々が活動しやすい体制を組んでいる。都市ブランド戦略としての一つの確立したモデルとなるだろう。

・マーケティング・コミュニケーション部門 最優秀賞

(株)電通 関西支社／(株)電通パブリックリレーションズ 関西支社

『「アイスの実」キャンペーン 2011PR活動』

【講評】

このキャンペーンは広報だけにとどまらず、広告・販促キャンペーンと入り混じっている要素が多分にある。つまり、統合的な広告キャンペーンの要素が強く、広報活動だけの受賞としてだけ押すにはややためらいが残るけれども、当該部門が「マーケティング・コミュニケーション」であり、その視点に立てば、効果の最大化のためにPRと広告を組みあわせることは必然ともいえる。

江口愛美のアイデアが先行している感があるが、PRだけの視点で見ても成功していると言える。また実績が伴っている点も評価が高かった。

・ソーシャル・コミュニケーション部門 最優秀賞

セカンドハーベスト・ジャパン

『被災地 石巻へ食糧配給拠点立ち上げ ～東日本大震災直後からの支援活動～』

【講評】

部門賞に輝いたセカンドハーベスト・ジャパンは、3.11 東日本大震災直後から、首都圏の帰宅難民4,000人に対し食料配布を実施したのを皮切りに、2日後には被災地への物資運搬・配布を始めた。被災地の現場を担当者自ら確認し、ツイッター、フェイスブック、ホームページ、ブログなど、あらゆるソーシャルメディアを駆使して被災地への長期的で継続的な支援を早期に立ちあげた。その結果、12月初めまでに100往復以上して援助物資を届け続けることができた。セカンドハーベスト・ジャパンの支援は、現地での活動を常にフィードバックし、かゆい所に手の届く支援物資の配布を継続し、被災者の立場に立って、謙虚で考え抜いた対応を行っている。多くの企業やボランティアをまとめ上げて成し得た大量の援助物資の配布はみごと。今後の災害時の支援体制を考えると、大いに参考となる事例だと思う。

・イノベーション部門
最優秀賞

(株)博報堂

『「マーケティング 3.0＝世の中と企業とが価値を共創する時代」のPR発想からの統合コミュニケーションプログラム「ヴィクトリーイレブンプログラム」』

【講評】

ソーシャルメディアの普及発展によりWOM(クチコミ)マーケティングの重要度が増している。企業と顧客との共創で価値を生み出すことへの注目が集まる中、企業発の情報をどのように作り出しどうリリースするかがPRの大きなテーマとして浮上してきた。クチコミが持続的に盛り上がるためには、興味を掻き立て話題を広げるコンテンツの提供が不可欠だからである。このプログラムは三洋電機のヒット商品『ゴパン』の作業プロセスで生れてきたプログラムであるが、この今日的課題に応えるため、サッカーのフォーメーションになぞらえた情報開発用テンプレートとしてまとめられたものである

このようなテンプレートが今後複数開発されるとともに、次の段階ではターゲットや商品特性に合わせた使い分けのノウハウとして蓄積されることを期待したい。

また、今年度に限り、「PRアワードグランプリ 特別賞」を東日本大震災の復興に大きく貢献された「高田松原を守る会」に授与しました。受賞理由は、津波で壊滅的な被害を受けた名勝「高田松原」で奇跡的に生き残った1本の松を保護する「希望の松を守る活動」が、復興の象徴として全国的な関心を集めるとともに、多くの人びとに希望と勇気を与えたことを高く評価したものです。表彰式は、12月8日、柳委員長らが出向き、地元陸前高田市の地竹沢公民館で執り行いました。



「高田松原を守る会」 鈴木会長(右)
と柳顕彰委員会委員長(左)

第5回PRプランナー交流会を11月22日に開催 60名のPRプランナーが参加！

資格制度委員会

11月22日(火)、アサツー ディ・ケイ 11F ラウンジにおいて、PRプランナーの交流を目的とした「第5回PRプランナー交流会」が開催されました。

今回も、18時半から受付を開始し、仕事を早めに切り上げ参加された方、交流会に参加するためスケジュールを調整しこられた方、企業内で取得され部署全員で参加された方々等で、開会の19時には50名以上の方にお集まりいただきました。

5回目である今回のPRプランナー交流会も前半・後半の2部構成で実施し、前半は、PRプランナー交流会準備委員 三樹 祐司氏(㈱ピーアールコンビナート)の司会のもと、PRプランナー資格制度委員会副委員長、㈱日本パブリックリレーションズ研究所 常務取締役 西垣 勇八氏のご挨拶から始まり、朝日新聞社「GLOBE」編集長 山脇 岳志氏に「新聞の新たな可能性を探る ～ 「GLOBE」の挑戦～」をテーマに「GLOBE」の創刊意図から今後の展開(オフレコ)についてご講演いただきました。



PRプランナー交流会準備委員
三樹 祐司氏(㈱ピーアールコンビナート)



資格制度委員会 副委員長
西垣 勇八氏(㈱日本パブリックリレーションズ研究所)



朝日新聞東京本社GLOBE編集部 編集長
山脇 岳志氏

その後、会場を参加者の皆様にお手伝いいただきながら、パーティ会場へと変更し、後半の懇親会へと移り、水谷 幸一氏、鎌田 裕氏の交流会準備委員メンバー紹介、PRプランナー交流会準備委員丸山 寛之氏（㈱大京）の乾杯後、懇親会となりました。



左から鎌田 裕氏(三菱電機情報システム)
水谷 幸一氏(㈱電通パブリックリレーションズ)
丸山 寛之氏(㈱大京)

懇親会は20時より始まり、活発な交流が行われました。永井 昌代氏（㈱プロペラ コミュニケーションズ）による中締めめの21時半まで、なごやかな雰囲気の中で懇親会は続きました。

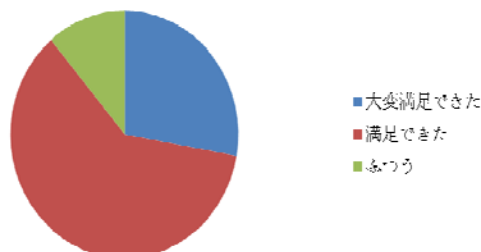
2007年から始まったPRプランナー資格認定制度では、第1回～第8回までで1,109名のPRプランナーが誕生しており、今回は5度目の交流会。PRプランナーを取得された有志の方々にお集まりいただき、まさに改変中であるメディアに焦点を当てたこともあり、意義深いPRプランナー交流会となりました。

開催参加申し込み者は、当初85名のお申込みをいただきましたが、当日は、企業の方が全体の50%の30名、PR業の方が全体の43.3%の26名、行政・団体・学校法人等の方が6.7%の4名となり、計60名が参加される会となりました。

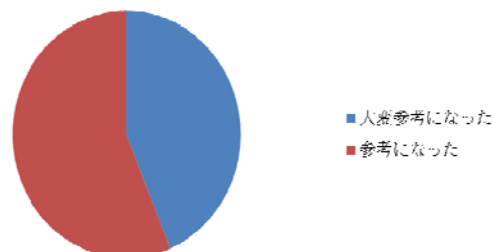
また、終了後にWEBアンケートを実施しました。集計結果やご意見は、次回開催に向け活用したいと思います。

ご協力いただきました関係者および関係各位の皆様、大変ありがとうございました。今後も、PRプランナー交流会は定期的開催されていく予定です。

交流会の内容について総体的にご満足いただけましたか？



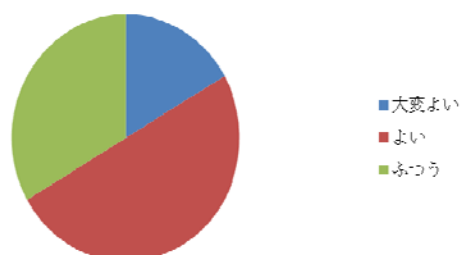
第1部の講演についてはいかがでしたか？



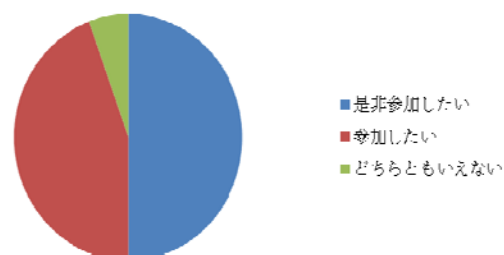
<第1部の講演についてのコメント>

- ・「GLOBE」が大変洗練されていて、社会問題を深掘りした、コンセプトが明確なメディアであることを知ることができたから。
- ・既成の概念にとらわれない、新しい紙面の誕生秘話、編集の裏側話が聴けたことが良かったです。
- ・「GLOBE」のコンセプトやその制作に携われている方の思いが伝わってきたため、それらを知ったうえで「GLOBE」を今後も読むことで、広報担当者として日々伝える仕事において、企画や伝え方などに活かすことができると感じました。
- ・「GLOBE」編集長のお話を通じて朝日新聞の取組み、ビジョンがリアルに感じられた。
- ・新聞メディアが、今後の方向性をどのように考えて動いているのか参考になりました。

第2部の懇親会の運営内容についてはいかがでしたか？



次回の交流会にも参加したいですか？



<第2部の懇親会の運営内容についてのコメント>

- ・同じまたは関連の仕事を持つ方々との交流機会は、なかなか無いため。貴重な機会でした。
- ・いろいろな企業でPR業務に携わられている方と面識を得られるのが良いと思います。
- ・普段交流することができない、業界関係者の方と意見交換が出来て、参考になりました。
- ・初めての参加でしたが、参加者のモチベーションが高く色々な方と交流ができた。
- ・司会、挨拶をするかた皆様すばしかったです。さすがプロ集団ですね。

会 員 限 定

第6回企業部会フォーラム メディア研究会 『毎日新聞社 論説委員(経済担当) 福本 容子氏に聞く「危機とメディア」 新聞とテレビの視点から』

— 企 業 部 会 —

第6回企業部会フォーラム メディア研究会を11月25日(金)18:30より、アーク森ビル(37F)アークヒルズクラブで開催しました。最初に参加者全員の紹介からはじまり、初めて参加した会員のために、協会の活動内容や企業部会で行っている「広報ゼミ(異業種交流)」や「広報活動研究会(会員社訪問・研究等)」の内容紹介のあと、「メディア研究会」が開始されました。

講師は毎日新聞社 論説委員(経済担当) 福本 容子氏。当日の参加者は21名でした。

第4回「広報活動研究会」開催報告 日本電信電話株式会社訪問および NTTグループショールーム『NOTE』訪問見学研修

— 企 業 部 会 —

第4回広報活動研究会を1月29日(火)「第4回広報活動研究会 大手町のNTTグループのショールームである『NOTE』で開催いたしました。

当日の参加者は32名でした。

会 員 限 定**第 136 回定例研究会****8 年連続ナンバー1「週刊文春」の編集方針**

講師：(株)文藝春秋

「週刊文春」編集長 島田 真 氏

第 136 回定例研究会を 11 月 25 日(金) 六本木アカデミーヒルズ 49 で開催しました。講師は文藝春秋「週刊文春」編集長 島田 真氏。テーマは「「現場主義」で週刊誌報道をリードする「週刊文春」がめざすもの-広報・PRと「総合週刊誌」のあるべき関係を探る-」。

当日の参加者は 58 名でした。

電通総研『話題注目商品2011』レポート 「生活者が選ぶ2011年の話題注目商品ランキング」 ～2年連続の第1位は スマートフォン～

電通総研ではその年の話題注目商品の調査を通じて、消費やライフスタイルの動向を毎年、分析していますが、昨年11月末に「生活者が選ぶ2011年の話題注目商品ランキング」を発表しました。

■2011年の話題注目商品、上位の傾向

このランキングは、約130の候補商品・サービスに関してアンケート調査を行い「認知度」・「関心度」・「話題度」を合計したものです。2011年は、普及が進んだ「スマートフォン」が、昨年に引き続き1位に輝きました。ランキング上位の特徴として、スマートフォン・タブレット端末・ソーシャル・メディアなどの「新しい情報ツール」を始め、震災を背景に需要が高まった節電関連商品やエコカーなどの「省エネや環境にやさしい商品」、東京スカイツリー・なでしこジャパン・AKB48などの「日本人を元気にした現象や人々」が目立っています。

■話題注目商品、ベスト10

1位	スマートフォン	(1位)	6位	芦田愛菜	(一)
2位	LED電球	(10位)	7位	ハイブリッドカー	(16位)
3位	東京スカイツリー	(7位)	8位	防災グッズ・備蓄食	(一)
4位	なでしこジャパン	(一)	9位	扇風機	(一)
5位	AKB48	(18位)	10位	地デジ対応大画面薄型テレビ	(4位)

() 内は昨年順位。(一) は昨年未調査。

■話題注目商品ベスト11～30

11位	食べるラー油	(3位)	21位	自動ロボット掃除機	(一)
12位	節電家電	(一)	22位	円高還元	(24位)
13位	レディー・ガガ	(一)	23位	ブルーレイディスクレコーダー	(13位)
14位	ホームベーカリー	(一)	24位	3Dの映画・ゲーム・PC・テレビなど	(15位)
15位	タブレット型情報端末	(19位)	25位	国内ファストファッション	(13位)
16位	ご当地B級グルメ	(11位)	26位	エコポイント・エコ減税関連商品	(8位)
17位	スティーブ・ジョブズ	(一)	27位	FacebookなどのSNS	(一)
18位	twitterなどのミニブログ	(2位)	28位	ガソリン低燃費車(第3のエコカー)	(一)
19位	電気自動車	(30位)	29位	アルコールゼロの酒風味飲料	(一)
20位	K-POP(少女時代、KARAなど)	(62位)	30位	冷感・涼感グッズ	(一)

() 内は昨年順位。(一) は昨年未調査。

※ 以上は、電通総研のニュースリリース(2011年11月24日)から一部を紹介しました。調査の全容及び詳細については、ニュースリリースをご参照ください。

<http://www.prsj.or.jp/wp-content/uploads/2011/12/fe8c588a31673a04a31ff47514fbae93.pdf>

ELトレンド指数で見るキーワード・ランキング 2011 年 11 月度

㈱エレクトロニック・ライブラリーは、2011 年 11 月度の「話題のキーワード・ランキング」を発表しました。

これは、11 月に発行された新聞 96 紙・雑誌約 100 誌のうち、「ELNET」に登録されているキーワード約 263 万語のヒット数の増減を数値化した「ELトレンド指数」等をもとに「一般キーワード」と「企業キーワード」に分けて分析したものです。

「一般キーワード」と「企業キーワード」のTOP10は以下の通りです。

■ 2011 年 11 月度 EL一般キーワード TOP10

順位	トレンド指数	キーワード	順位	トレンド指数	キーワード
1位	9.59	東日本大震災	6位	4.64	洪水
2位	8.64	損失隠し	7位	4.48	除染
3位	8.45	債務危機	8位	4.19	野田政権
4位	5.60	原発事故	9位	3.71	提言型政策仕分け
5位	4.69	欧州危機	10位	3.64	東京モーターショー

■ 2011 年 11 月度 EL企業キーワード TOP10

順位	トレンド指数	キーワード	順位	トレンド指数	キーワード
1位	5.35	オリンパス	6位	1.89	ECB
2位	3.17	ジャイラス	7位	1.81	コナミ
3位	2.92	大王製紙	8位	1.71	グリー
4位	2.32	DeNA	9位	1.70	東京電力
5位	2.06	欧州中央銀行	10位	1.69	スパリゾートハワイアンズ

※ELNETホームページでは毎月の発表を週刊にバージョンアップした上で、「ELウィークリートrend」として毎週水曜日に発表しています。
詳細は以下ご参照ください。

<http://www.elnet.co.jp/el/trend/index.html>

＜コラム 関西の風＞

関西の高速道路整備の現況

西日本高速道路㈱
広報課長 京極 靖司

皆様、新年明けましておめでとうございます。

さて、政府の第三次補正予算や新年度予算も決まり今年は震災復興が本格化していきますが、今回の震災では道路、鉄道、港湾などの社会インフラが防災面で果たす役割の重要性が再認識されました。そのため、被災地の復興に加えて東京外郭環状道路をはじめとする高速道路や整備新幹線3路線の新規着工が次々に決定されています。

今回は現在関西地区で建設中の高速道路の現況をご紹介します。

新名神高速道路では昨年末に京都府域においても工事に着手し、平成28年度の開通を目指して各地での工事が全面展開していきます。中国道の宝塚トンネルや名神高速道路の高槻バスストップ、瀬田東JCTといった渋滞の名所では日常的な渋滞により莫大な時間ロスが生じていますが、この影響は関西だけに止まらず日本の経済全体にも大きく及んでいます。新名神高速道路の完成による渋滞損失の軽減効果を最大化するためにも、現在着工が凍結されている大津～城陽間と八幡～高槻間の早期着工に期待が掛かります。



京都縦貫自動車道のうち起点側の京都第二外環状道路では大山崎JCT～沓掛IC間の約10kmが平成24年度の完成を目指して工事の最盛期を迎えています。この区間が完成すると、京都丹波道路と名神高速道路がつながるだけでなく、京滋バイパスや第二京阪との接続や将来的には新名神高速道路や京奈和自動車道との広域ネットワークが形成されます。この区間には京都～大阪間の交通の大動脈が集中しており、それらを連続して跨ぐ構造になります。すでに東海道新幹線、名神高速道路、国道171号線、阪急京都線各上空の架設は完了しており、今年の夏にはJR京都線上の架設を予定しています。

今年の開通は、京奈和自動車道では大和御所道路と紀北東道路の一部が平成23年度内に、北近畿豊岡自動車道の和田山八鹿道路が今年末頃の予定です。その他、阪和自動車道の田辺～すさみ間、那智勝浦道路、阪神高速道路の淀川左岸線、同大和川線など各地で事業展開中です。

被災地域の早期の震災復興は待ち望まれています。さらに新たな高速道路ネットワークの整備によって日本全体の景気が回復することを願って、これからも関西から元気を届けていきたいですね。

『日本経済がわかる』（日経プレミアムシリーズI プラス）

日本経済新聞社：編：日本経済新聞出版社：刊（2011年11月）p197
価格 695 円＋税

「日経プレミアムシリーズI プラス」は、“情報書籍”という位置付けどおり“いま”の課題を連続刊行という方法により雑誌感覚で提示している。本書の特集は「日本経済がわかる」（3部構成）で経済のエキスパートが執筆している。特集1は「日本経済を変える3つの論点」で筆者は伊藤元重氏。転換特期にある日本経済の進むべき3つの方向として①日本を外に開く②長期に持続できる仕組みをつくる③マーケット・メカニズムを徹底活用する、を提言。特集2は「新しい日本経済の生き方、円高とデフレは恐くない!」。筆者は小幡 績氏。特集3は「日本破綻を防ぐ」で、小黒一正氏と小林慶一郎氏の執筆と対談で構成。それぞれ分りやすく気軽に手に取れる。



『新聞・テレビは信頼を取り戻せるか』 ～調査報道を考える～（平凡社新書）

小俣一平：著 平凡社：刊（2011年11月）p287
価格：800 円＋税

「この四半世紀に記者の問題意識が希薄になっているのではないか。これは単に企業体としてのマスメディアの危機に止まらずジャーナリズム総体の危機であり、その原因をたどると発表依存の体質が見え隠れする」。長年、報道の第一線にあった筆者は、自戒を込めて指摘する。そして「この状況を打開するには調査報道を目指すべきであり、それは発表に頼らず、自分の足でネタを探し、独自ダネを書くという取材の基本である」と言う。本書では、そうした視点から、「調査報道とはなにか」「調査報道の生命線」「報道発表と記者クラブ」などの問題を豊富な事例を示しながら問い直している。筆者は、NHKの社会部担当部長、同放送文化研究所研究主幹などを経て東京都市大学教授（情報メディア学科）。



『ニュースに騙されるな』 ～「報道現場」本当の舞台裏～（宝島社新書）

椎名健次郎：著 宝島社：刊（2011年12月）p189
価格：667 円＋税

大上段にふりかざしたタイトルだが、内容は主としてテレビ局のニュース制作現場の衰退の現状である。筆者は大手テレビ局の政治部記者やニュース番組のディレクターを務めるなどテレビニュースのベテラン。その後、インターネット会社のニュース担当に転じたが、インターネットに対する記述の以前のテレビ局のニュース現場を伝えた記述にインパクトがある。官邸や記者クラブに依存した横並び体制やほとんど新聞・雑誌記事に依存するネタの作り方、情報の加工方法の歪み、恵まれた待遇の中で危機感の欠如などはうなずける。現場にいた当事者ならではのリアル感が伝わってくる。テレビのニュース現場は、果たして立ち直れるのだろうか。「ニュースに未来はない」と筆者は悲観的である。



■ 会員便り

協会監事で個人正会員Aのウェーバー・シャンドウィック・ワールドワイド(株) 代表取締役会長 西谷 武夫氏が「パブリック・アフェアーズ戦略」を 11月に発刊

本書は、ウェーバー・シャンドウィック・ワールドワイド(株) 代表取締役会長である著者が40年以上にわたる国際的な渉外活動から得た豊富な知見を初めて公開したもので、パブリック・アフェアーズ戦略に関するタイムリーかつ重要な内容が盛り込まれている。

「パブリック・アフェアーズは、主に政府や国際公共機関などを対象とした渉外活動で、その目的は政策や法律、規制の制定に関する問題を交渉し解決することである。簡単にいえば自社に好都合なルールを獲得すべく、公正、透明な方法で交渉し、合意を形成することである。この活動は企業戦略のスタンダードであり、最後の命綱になる。」(「はじめに」から) 著者によれば、こうした活動は、グローバル市場では常識となっており、すでに世界的規模での「ルール策定戦争」が始まっている。日本はこの戦争に完全に出遅れているが、いま話題のTTPもその一つである。

著者は、この出遅れを取り戻すためには、通商政策や規則、標準作りを政府まかせではなく、すべての企業が積極的に参加すべきであるという立場から、「ルール策定戦争」に勝つための企業戦略を「ルールに縛られるな、ルールを創りだせ」という提言を含めて、以下の5章に分けて解き明かしている。

- 第1章 今、なぜパブリック・アフェアーズ戦略が必要か
- 第2章 ますます高まるパブリック・アフェアーズ戦略の重要性
- 第3章 パブリック・アフェアーズの戦略と仕組みづくり
- 第4章 パブリック・アフェアーズ戦略を展開する
- 第5章 各国のパブリック・アフェアーズ活動の実情

各章とも興味深い筆致で理解しやすいが、第1章では、パブリック・アフェアーズとロビイングとの違いを次のようにいう。「最終的活動目的は同じだが両者の違いは、その目的達成の手段にある。密室型の1対1の交渉が主であるロビイングに対し、パブリック・アフェアーズは公正で透明な、多様なコミュニケーション手段を使って交渉・説得する。時代の要請を受けて、不透明になりがちなロビイングをオープン・フェアに進化させたものがパブリック・アフェアーズなのである」。パブリック・アフェアーズ戦略は、ロビイングと共にパブリックリレーションズ(PR)活動の要素も持つが、PR活動と比較した場合、パブリック・アフェアーズ戦略は、政策・規制制定にまで踏み込み、自社に有利なルールという具体的な成果を求めるため、より深く専門的な知識が求められる。

パブリック・アフェアーズ戦略の成功事例も豊富である。日本初のがん保険を発売したアメリカンファミリーの根気強い戦略展開や、2009年にアメリカでの大規模なパッシングに直面したトヨタがわずか半年で信頼を回復し危機管理などは興味深い。全体として啓発されること多多である。本書の発刊を契機に、パブリック・アフェアーズ戦略への関心が高まることを期待したい。

<書籍概要>

『パブリック・アフェアーズ戦略』

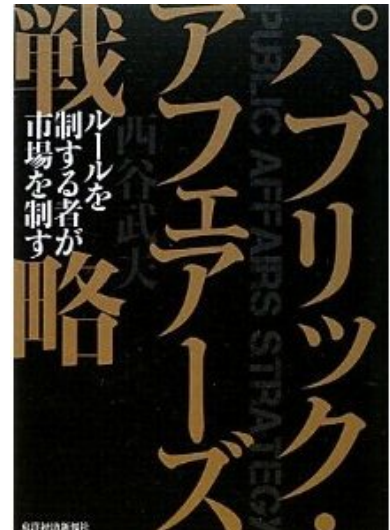
著 者：西谷 武夫

発 行：東洋経済新報社(2011年11月25日発売)

体 裁：単行本(19.9 x 14 x 2.6 cm)、224ページ

価 格：1,890円(税込)

I S B N：978-4492533024



PRSJ in Media

●12月6日（火）『アドタイ』

当協会のPRアワードグランプリの発表について、宣伝会議のニュースWeb『アドタイ』で報じられました。記事では、さいたま市議会が発行している広報誌「市議会だよりさいたま」（「ロクマル」）のグランプリ受賞、および4部門の最優秀賞、優秀賞の受賞作品について紹介されています。

<http://www.advertimes.com/>

（ホーム > 広告界のニュース > 団体・広告賞 > 2011年度PRアワードグランプリは、さいたま市・議会広報紙「ロクマル」に！）

●12月7日（水）『日本経済新聞（茨城版）／（群馬版）／（栃木版）』

宇都宮市の都市ブランド戦略プロジェクト「宇都宮プライド」が、当協会の2011年度PRアワードのコーポレート・コミュニケーション部門 最優秀賞を獲得したことについて受賞理由とともに紹介されました。

●12月7日（水）『下野新聞』

宇都宮市の都市ブランド戦略プロジェクト「宇都宮プライド」が、当協会の2011年度PRアワードのコーポレート・コミュニケーション部門 最優秀賞を受賞したことについて報じられました。記事では、同プロジェクトやPRアワードの概要、受賞理由等が紹介されています。

●12月8日（木）『産経新聞（栃木版）』

宇都宮市の都市ブランド戦略プロジェクト「宇都宮プライド」が、当協会の2011年度PRアワードのコーポレート・コミュニケーション部門 最優秀賞を受賞したことについて報じられました。記事では、アワードの概要や表彰式の実施、選定の理由、市当局のコメントなどが紹介されています。

●12月8日（木）『産経新聞（埼玉版）』

さいたま市議会が発行している広報誌「市議会だよりさいたま」の「ロクマル」が、当協会の2011年度PRアワードグランプリを受賞したことについて記事掲載されました。記事では、PRアワードグランプリの趣旨、受賞理由等にあわせて、“業界最高峰の賞”と紹介されています。

●12月9日（金）『読売新聞（全国版）』

岩手県陸前高田氏の「奇跡の一本松」の保護活動を続けた「高田松原を守る会」が、当協会のPRアワードグランプリ特別賞を受賞したことについて記事掲載されました。PRアワードグランプリ特別賞の趣旨や表彰内容、同会の会長のコメントなどが紹介されています。

●12月11日（木）『朝日新聞（埼玉版）』

さいたま市議会が発行している広報誌「市議会だよりさいたま」の「ロクマル」が、当協会の2011年度PRアワードグランプリを受賞したことについて記事掲載されました。記事ではそれまでの広報誌の常識を破った「ロクマル」の特徴や受賞理由、(株)電通パブリックリレーションズの協力などが紹介されています。

●12月14日（日） 『毎日新聞（埼玉版）』

さいたま市議会が発行している広報誌「市議会だよりさいたま」の「ロクマル」が、当協会の2011年度PRアワードグランプリで応募39点の中からグランプリに選ばれたことについて報じられました。記事では、「ロクマル」の誌名の由来や特徴、発行部数、発行経費、また受賞の理由、(株)電通パブリックリレーションズの協力などが写真入りで紹介されています。

●12月18日（木） 『埼玉新聞』

さいたま市議会が発行している広報誌「市議会だよりさいたま」の「ロクマル」が、当協会の2011年度PRアワードのグランプリを受賞したことが報じられました。記事では「ロクマル」の発行部数、(株)電通パブリックリレーションズの協力や工夫点、誌名の由来、ブログ等を通じた市民からの反応、選定理由や市議会議長のコメントなどが写真とともに紹介されています。

●12月14日（日） 『新聞情報』

当協会が主宰する2011年度PRアワードグランプリの2部門で博報堂が最優秀賞を受賞したことが紹介されています。受賞作品はコーポレート・コミュニケーション部門において宇都宮市の都市ブランド戦略プロジェクト「宇都宮プライド」、またイノベーション部門で統合コミュニケーションプログラム「ヴィクトリーイレブンプログラム」であること、また参画した博報堂の関係者について紹介されています。

●12月19日（月） 『電通報』

当協会のPRアワードグランプリの発表について紹介されました。記事では、グランプリ、および4部門の最優秀賞、加えて震災特別賞を受賞した作品や団体が紹介されています。また、PRパーソン・オブ・ザ・イヤーには、サッカー日本代表「なでしこジャパン」の佐々木則夫監督が選出されたことが、あわせて報じられました。

編集担当より

会員のみなさんの情報をお寄せください！！

本誌では会員の動向・消息や、会員から会員へのお知らせなどを積極的に掲載いたします。ビジネスに直結する情報に限らず、会員交流に関するものでも結構ですので是非ご一報ください。

2011年度 広報PRアカデミー実施要項

コース	コース・コンセプト	対象者レベル	実務経験年数	講座名	講座コンセプト	時期	期間
入門・基礎コース	広報・PRに関する基本的な知識やスキルを習得させ、上司や先輩の指導のもとに業務を遂行できる基礎的な実務能力を育成する。	PR会社や広報セクション等に入社、配属された新任もしくは経験の浅い広報・PR業務の担当者。	0～2年	広報・PR入門講座	講義や演習、ケーススタディの紹介等の多彩なカリキュラムを通して広報・PRに関する基本的な知識やスキルを総合的に習得する基礎講座。	4月中旬	全日/5日間連続
中級コース	日常的に生ずる広報・PRの課題に、自身の判断で適切かつ効果的な対応を行うことができる、より高度な実務能力を育成する。	上司や先輩の助言なしに日常的な業務を遂行できる能力を有する担当者。	2～5年	メディアリレーションズ集中講座 (旧 広報PR実務講座)	新聞、雑誌、テレビ、ネット系メディアの第一線で活躍する現場キーマンを講師に招き、それぞれのメディアの特性、方針、業務や体制の実際や記者へのアプローチ法等に関するアドバイスをいただき、多様なメディアへの対応能力の向上をはかる実務講座。	7月	半日/2日間(午後～夜間)
			3年以上	スキルアップ・コース	ニュースリリースの作成、日常的なメディア対応、非常時におけるメディア対応等、現場実務の担当者のメディア対応能力の強化をはかる技能養成講座。	10月	半日/3日間
上級コース	広報・PRの実務を通じて経営者や上司を補佐するとともに、グループをマネジメントして組織的かつ計画的に企業・団体の広報・PR業務を推進できる能力を育成する。	経営や事業における課題を認識しその解決に向けて自身の判断で広報・PR業務を遂行できる能力を有する担当者。	5年以上	マネジメントコース	大学教員等の学識者や現役の広報マネージャー、各分野のスペシャリストを講師に招き、講義や演習を通じて広報・PR業務マネジメントに必要な幅広い知識、スキル、考え方を体系的に習得する広報・PRマネージャー養成講座。	11～3月	各120分/隔週12回(夜間)
PRプランナー試験対応コース	広報・PRに関する知識やスキルを習得させ、PRプランナー資格認定・検定制度試験を合格できる実力を育成する。	広報・PR業務に興味を持ち、PRプランナー試験の合格をめざす者。	0年～(学生可)	1次試験対応講座	PRプランナー1次試験合格をめざし、テキストをベースに広報・PRに関する基本的な知識、考え方を習得する講座。	7～8月/1～2月	各150分/週一5日間(夜間)
			3年以上	3次試験対応講座 (旧 広報ジュニア・カレッジ)	PRプランナー3次試験合格をめざし、実務にも役立つニュースリリースの作成法、広報・PR計画の立案法を高度なレベルで習得する講座。	6～7月/12～1月	各150分/週一6日間(夜間)

※詳細につきましては、順次当協会ホームページ (<http://www.prsj.or.jp>) で発表いたします。

※カリキュラムは変更する場合があります。ご了承ください。

(社)日本パブリックリレーションズ協会
tel. 03-5413-6760 fax. 03-5413-2147